

AmazonKDP で出版してみたよ。

じかんがないよ

イーパ部副部長 うえだうさこ

1) 原稿作成

8/25-26 の 1 日半くらい。

英語文章だけだと短くなるので、画像もつける

■画像

表紙 600 × 800 で作成（500 以上、800 以上らしいけど、大きすぎると圧縮されて汚くなる）

本文内の画像は幅 600（縦成り行き。800 以下）で作成。

※画像での注意点

ポイントは、PC や iPad の場合はから一だけど、一般的なデバイスの Kindle はモノクロなので、モノクロになったときでもきちんと判別できるものにしなければならない。

読む方の余白設定によって画像サイズは変化するので、文字が潰れないように注意。

O1 Introduction では、一番小さいひらがな、カタカナ部分が 9pt。これでもぎりぎり

漢字だったら読めないかも。だいたい web の感覚とおなじでいいのかな？

■テキスト

はじめ html で作成していて、それでも登録 OK だった。

ただ、画像はアップできないので epub で作成

※ html ファイルで作る時の問題点

html 形式での問題点→ TableOfContents が作成できない。

画像がインクルードできない。

表紙はインクルードできる。

2) 登録

kdp のアカウント登録は済ませておくとして、出版はたったの 2 ステップ。

2-1) 情報のアップロード

出版社や著者などの書籍に関する情報、
ジャンル登録、表紙、コンテンツのアップロード
コンテンツはアップロードが完了するとプレビューできます（画像化されています）

2-2) 価格の設定

0.99 ドルからの価格設定です。
ただし、日本からの購入だと 2 ドル上乘せになりますので、0.99 設定でも 2.99 ドル。
日本人をターゲットとするなら、ちょっと痛いかもしれません。

2-3) 販売 ※この辺変わっているかも

8/26 17 時頃ポチ、と出版。ステータスは「in Review」

8/26 夜中の 11 時頃には購入可能に。「Publishing」
ただ、その時点ではデータの差し替えはできず。

8/27 18 時頃管理画面を確認すると編集も可能に。
修正したデータをアップするとさいど inReview に。

22:00 ごろ確認したところ、さし変わっていたが、一旦購入した人のデータは変わらないらしい。
購入しようとする、既に購入済みとなり、どうやったら新しいものが読めるのか、謎！

8/30 AM6:00 アマゾンから書籍が出版されたよ、とメールが来る。「Live」

3) 販売

2冊しか売れていないのに、ジャンル内で8位というくらい、本も少ないし、売れる量も少ない (^_^;
ま、これからこれから。

4) 本を出版してみても

【00.Introduction】

画像の文字がどのくらいのサイズまで読めるか
この時都道府県のよみがなが、9pt

■確認した問題

リストの表示方法が、デバイスによって違う！！

例) ol の番号付きリスト

Kindle では普通の晩業表示だったのに、iPad の Kindle アプリでは
2 行にした場合、両方の頭に数字がつくという、変な事態に。

【01. 石川県】

ファイルを Epub で作成し、Calibre (カリバー) で mobi に変換してアップ。
mobi にすることで、一旦実機での確認が可能になります。

■問題点

Calibre 面倒。Kindlegen でいいかも。

(ただしいろいろエラー吐くことが多い。meta Editor で language を Japanese にしておかないと、変換ができないなど。)

【02 香川県】 後ほど販売

日本語テキストの利用にチャレンジ

参考にダウンロードした書籍が、日本語も入っているものだったので、日本語を入れる
→ UTF にしたら OK。

5) Amazon で気をつけなければいけないポイント

■ 修正版の配布

購入した人に修正版を配布できない

■ 価格設定

0.99 ドルから値段を付けられるけれど、容量が重ければ最低価格が変わってくる。

00 は 0.99 ドルで発売できたが、01 石川県は写真が多いからか、ファイルサイズが 5MB を超え、最低が 1.99 ドルだった
ただ、03 香川県は、01 石川県と同じ作りにも関わらず、ファイルサイズが 1.3MB と軽い。

0.99 ドルでの設定も可能かも。

日本での購入は一冊につきプラス 2 ドルが加算される。

おそらく、通信費用。

なので、最低価格でもでも 2.99 ドル。

■ 円高

円高なので、売っても利益が少ない（笑）

■ KDP Select

12 月に追加されてた機能

90 日間は他からださない、ということで、世界中に宣伝してくれる仕組みらしい（ホントかなあ）

6) 日本の他の方が出版している書籍をみて

日本語（文字）が使えないということで、画像にして書籍を発行している方がいるが、レビューをみていると、不評。Kindle ならではの、テキストサイズを自分好みにして読める、ということが重要だとの意見。英語圏の読者に、日本語での出版が出来ないと言う事情は一切通じないと思うべき。

また、画像で日本語の言葉と英語の対応だけをのせているコンテンツが何点もあり、2.99 ドルの価格だったが、0.99 ドルの価値しかない、などとのレビューがあり。

概ね好評なのが漫画。

ただ、漫画も日本語のものがまだ多く、また、あまり有名！というものは少ない気がする。

他に選択肢が無いので、マイナーな方でも売りやすいかも？

7) 結論

英語で海外向けコンテンツを用意することができれば、かなり有用。

書籍も少ないので、ジャンル内ランキング独占も可能だと思う。

写真集、イラスト集などは、翻訳にかかる価格も高くないので、敷居が低いが、Kindle に求められているのは白黒でも可能なテキストコンテンツだとはおもう。

※後日談

カラー液晶の KindleFire が発売になったので、画集や写真集がこれから狙い目。

Amazon Kindle は、GIFT 可能。

献本はしやすいと思う。